

平成 24 年 5 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社メディビックグループ
代表者名 代表取締役社長 橋本 康弘
(コード番号 2369 : 東証マザーズ)
問合せ先 執行役員管理本部長 門井 豊
(Tel: 03-3222-0132)

英国キングスカレッジロンドン大津教授との共同開発契約締結に関するお知らせ

この度、当社子会社のメディビックは、英国キングスカレッジロンドン循環器教授で当社特別技術顧問である大津欣也教授との間で、大津教授が発明、特許を保有する「慢性心不全における運動耐容能低下の改善剤」に関するノウハウを活用した共同開発契約を締結することといたしましたので、お知らせいたします。

1. 契約締結の内容

大津教授は、心不全をはじめとする心臓疾患治療における数多くの研究成果を発表し、直近では、大阪大学との研究チームにおいて、心不全の原因のひとつとされる心筋の炎症メカニズムを、遺伝子異常という側面からのアプローチによって研究・解明された、心疾患治療におけるわが国の第一人者であります。

大津教授は、がんの放射線治療を高める作用が期待されている低分子化合物 **RSR13** に着目、体内の組織に対し酸素供給量を上昇させる効果をもたらすその特性を利用し、がん治療だけではなく運動能力の改善薬としての研究開発を行ってきました。

RSR13 は、赤血球のヘモグロビンと酸素分子との結合能力を変化させることにより、体内の組織に酸素を通常以上に供給する特性を持っています。酸素供給量の増加によって、体内組織は通常以上の運動能力を発揮することが可能となります。慢性心不全などで運動障害がある人に **RSR13** を投与することで、一時的に運動能力が改善することが期待されています。**RSR13** の生体への効果は、慢性心不全をもつマウスの動物実験により証明され、国際的な科学論文としてすでに発表されています*。

メディビックは、これまでの研究の中で、ヘモグロビン遺伝子の多型性によるヘモグロビンと酸素分子との結合能力の変化を認知し、**RSR13** の薬剤有効性を推定する遺伝子検査を開発する目処がたちましたので、当社は投与前の遺伝子検査開発を主な役割として共同開発に関与することとなりました。また、当社は、現在キングスカレッジで行われている **RSR13** の研究開発パートナーの選定も進めます。

そこで、大津教授とメディビックは、「新薬候補低分子化合物 **RSR13** の開発と投与前の有効性推定のための遺伝子検査」を開発するため、共同開発契約を締結することといたしました。

* Journal of the American College of Cardiology. 2008 Aug 26;52(9):779-86.

【心不全とは】

心臓のポンプ機能が低下して、全身が必要とする血液を十分に提供できない状態を指します。この状態が急激に起こる急性心不全と、心臓機能が徐々に低下していく慢性心不全の2つに大きく分けられます。特に後者は生活習慣病のひとつとされ、高齢化とともに患者数が増えています。慢性心不全の治療には、生活改善や薬物療法に加えて、手術による外科的治療も行われることもありますが、心臓の機能を元通りにする治療法は確立されていません。多くの場合、予後の改善と QOL (Quality of Life、生活の質) の向上を目指した治療に重点がおかれます。

【RSR13 とは】

放射線増感剤の一種で、エファプロキシラル (Efaproxiral) ともよばれます。血液中の酸素がヘモグロビンと結合しやすくすることによって、組織低酸素症を減少させ、放射線療法の効果を高めるとされています。

2. 大津欣也氏の略歴

(1) 主な経歴

昭和 58 年 3 月 大阪大学医学部医学科卒業
昭和 59 年 12 月 米国立衛生研究所老化研究所 Visiting Fellow
昭和 62 年 9 月 同 Visiting Associate
昭和 63 年 9 月 トロント大学チャールズ・ベスト研究所 研究員
平成 4 年 5 月 大阪大学医学部附属病院医員
平成 19 年 4 月 大阪大学大学院医学系研究科准教授 (循環器内科学)
平成 24 年 1 月 キングスカレッジロンドン循環器科教授
(現在に至る)

(2) その他の役職

日本循環器学会 (近畿地方会評議員)
日本心不全学会 (評議員)
国際心臓研究学会 (評議員)
ほか多数あり。

3. 今後の見通し

本契約締結の平成 24 年 12 月期における当社連結業績に与える見積額につきましては、軽微と考えております。

以 上